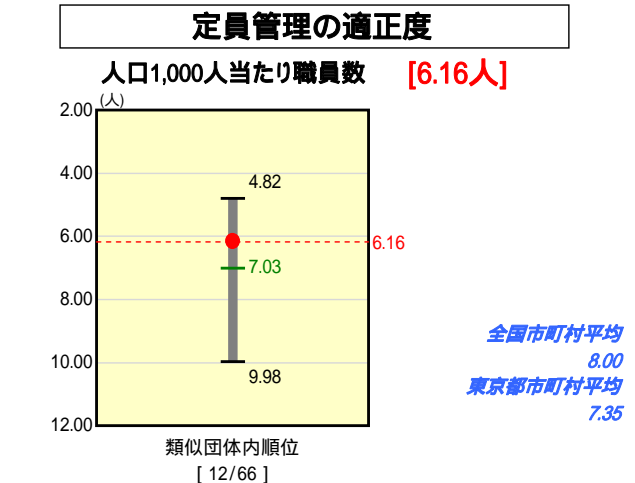
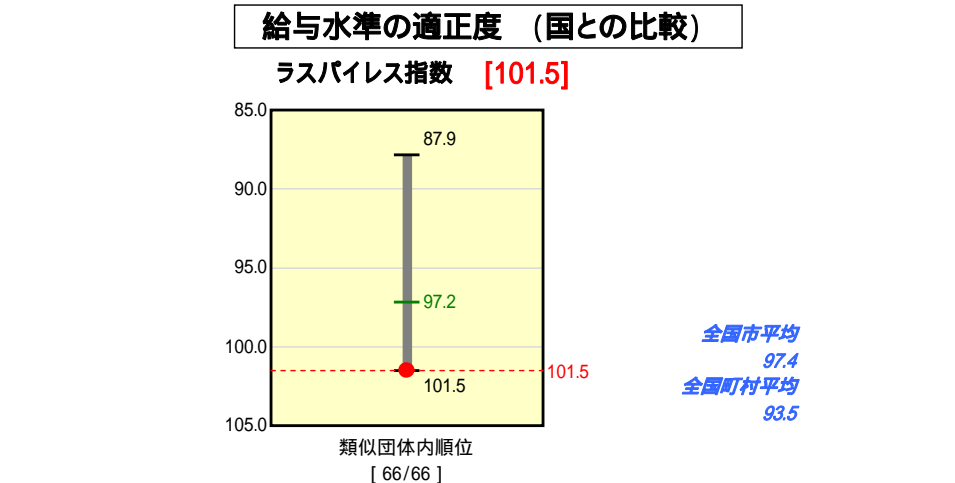
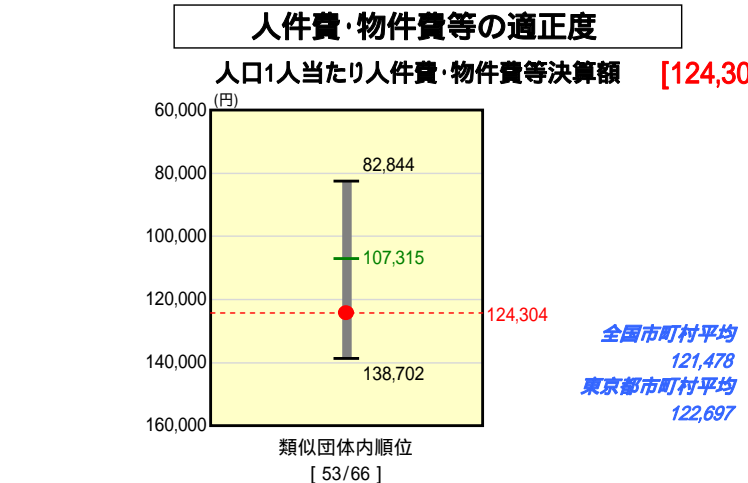
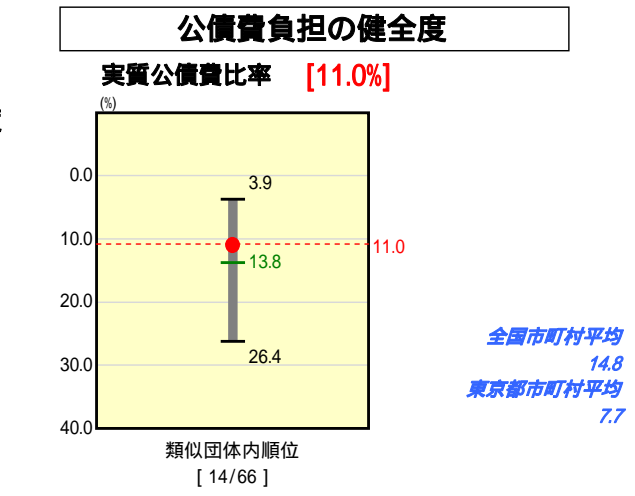
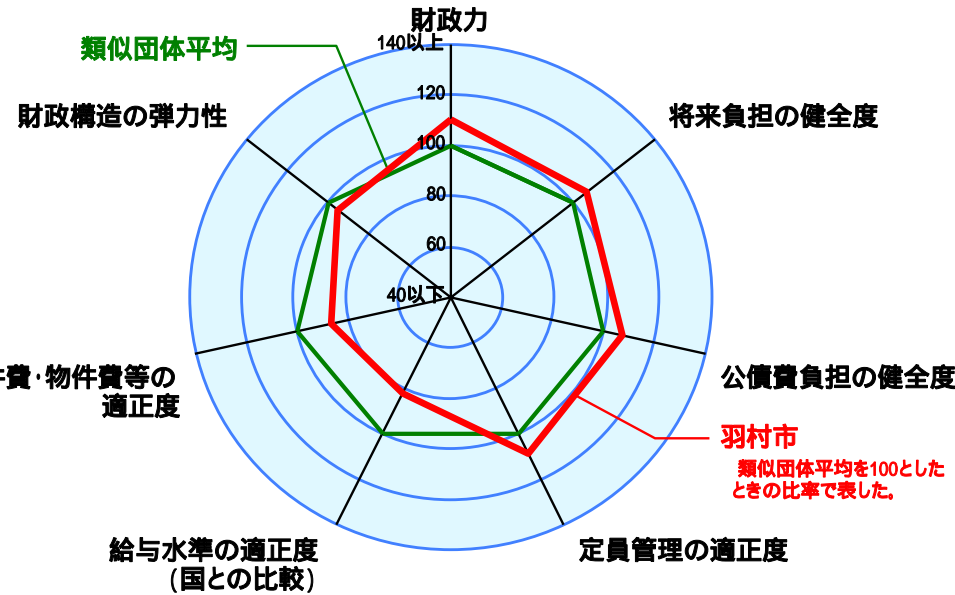
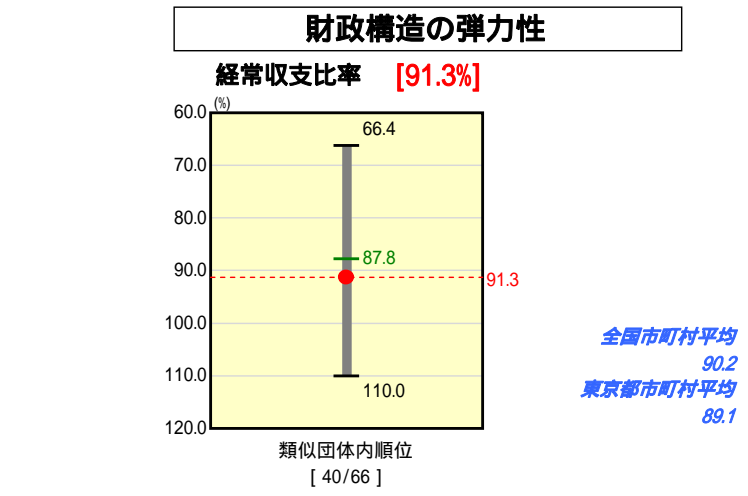
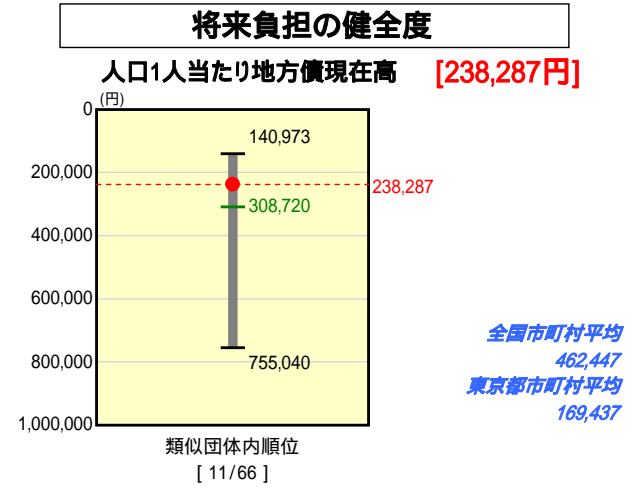
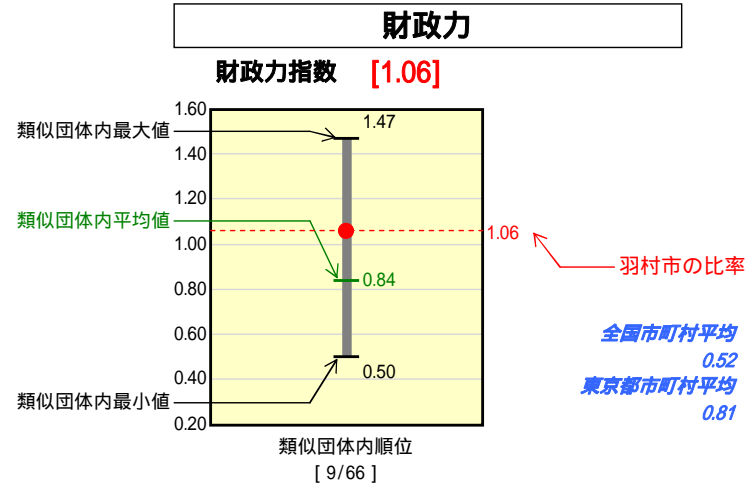


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

東京都 羽村市

人口	55,329人	(H18.3.31現在)
面積	9.91	km ²
歳入総額	21,421,977	千円
歳出総額	20,858,890	千円
実質収支	563,061	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】景気の回復等により市民税法人税割の増加や所得譲与税の算入率が引上げられたことなどにより、前年度に引き続き、1.0を超えた。今後の交付税制度改革等を考慮すると、財政力指数は、1.0以上になるものと見込んでいる。

【経常収支比率】前年度に比べ、0.2ポイント改善した。これは、市税、地方譲与税等の増加により経常一般財源が増加したことによる。しかし、類似団体の平均より高い数値となっている。現在、羽村市行財政改革推進プランにおいて、90.0%を目標にし、経常経費の削減などに取り組んでいる。

【人口1人当たり人件費・物件費等】歳出に占める人件費の割合は16.9%であり、東京都市町村と比較しても非常に低い数値を維持している。物件費については、コミュニティバス「はむらん」の運行開始など、市民サービスの充実により高い数値となっているが、今後は公共サービスのあり方の総点検を行い、類似事務事業を中心に、必要性、効率性、緊急性を精査の上、事務事業の見直しに取り組んでいく。

【ラスパイレス指数】前年度と比べ0.3ポイント低い数値となった。東京都市平均の101.5と同じであるが、全国市平均等と比べると高い水準にある。引き続き、国・東京都の給与構造改革に合わせ見直しを検討していく。

【人口1人当たり地方債現在高】前年度と比較し、若干の増加となっているが、15年度から3か年の継続事業として建設を進めた生涯学習施設西棟の建設最終年度にあたり、借入額が増加したことによるものである。類似団体と比較し、依然低い数値ではあるが、後年度の負担を考慮しながら、今後も慎重に財政運営を行っていく。

【実質公債費比率】計画的な市債の借入に努めてきた結果、類似団体平均を下回る数値となっている。今後も市の発展に不可欠な都市的基盤の整備である区画整理事業等が予定されているが、一層計画的な財政運営に努め、数値が大きく増加することのないよう取り組んでいく。

【職員数】類似団体平均、東京都市町村平均、何れと比較しても低い数値であり、前年度と比べても0.13ポイント改善している。定員適正化については、平成7年度から取り組みを続けており、平成6年度には、人口1,000人当たり職員数が7.92人であったものが、平成17年度には6.16人となり、取り組みの効果が表れている。平成19年2月には、平成23年度までの新たな定員管理適正化計画を策定し、人件費の削減を図るとともに定員も5.7%削減し、定員管理の適正化を図っていく。